第1回袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇話会 会議録要旨

1 開催日時 平成27年8月3日(月) 午後2時開会

2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

3 出席委員

委員	片倉 憲太郎	委員	永野 康平
委員	田中 直子	委員	鈴木 英一
委員	高橋 清	委員	石橋 芳継
委員	佐久間 良雄	委員	山口 修
委員	小俣 好文	委員	田中 佐智子
委員	佐久間 正博	委員	松村 陽一
委員	石井 智広	委員	板垣 秀明
委員	鶴岡 慶一	委員	日高 学(代理)
委員	山田 満	委員	堀井 賢一
委員	立川 久雄	委員	石井 和夫
委員	長田 秀実		

4 出席職員

市長	出口 清	企画課副参事	千田 和也
企画財政部長	長谷川 美喜男	企画課主査	須藤 浩二
企画財政部次長	分目 浩	企画課主査	高品 誠

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	1人

6 議 事

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 委員紹介
- (4) 事務局紹介
- (5) 議題

①袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- ・まち・ひと・しごと創生の制度概要
- ・袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針
- ・袖ヶ浦市人口ビジョン(素案)

・袖ヶ浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略のイメージ

②その他

(6) 閉会

事務局より資料に基づき説明し、委員より4つの基本目標ごとに意見を伺った。意見は、以下のとおり。

基本目標(1) 地域における安定した雇用を創出する

- ・椎の森工業団地の誘致について、県をあげて誘致に取り組んでいくと聞いている。我々で何かすることは難しいが、市と県が一体となって取り組んでいただければ良いと思う。
- ・農業振興に関して一番気にしている点は、担い手育成と支援の関係である。農地の利用集積が一番課題となっている。この利用集積がスムーズに進まない原因のひとつとして、他市から優良農地を求めて現金で借りに来ていたりするので、もう少し市内の農業者が優先的に借りられるような具体的な方策を盛り込んでもらえると良い。
- ・新規就農にはお金も掛かるので、そこへの支援も盛り込んでもらえれば、スムーズに進められるのではないかと考える。
- ・農業に関してだが、やはり大規模に、10町歩や20町歩で行えれば良いと思うので、市でもその点をリードしてもらえればと思う。
- ・既存企業は限られた人材の中で企業活動を行っている。その中でも団塊の世代の大勢の退職者が出る時期となっているので、雇用を進めたいところであるが、今一つ市内、県内で人材が不足しているのが現状である。学力ということもある。意力と学力を持った人材を求めており、なかなかその辺が合致しない。一つの企業には周りに関連する企業もあり、そこでは以前と変わりがなく地域を優先とした対応もしていることから、若手の意力ある、学力ある方を求めたいと思っている。現状はそのように感じている。
- ・教育の内容に関しては、かなり財政的な支援も頂いており、例えば小学5年生と中学2年生では、困難体験ということで登山など、子どもの耐える力や体力を養うことを行っている。学力の面に関しても、教育委員会のきめ細かな施策の中で、小学校・中学校が連携しながら綿密に行っている。

- ・今一番の問題点としては、市内に転入してくる子の中に、日本語も十分に話せない子や様々な性格面の課題を抱えている子なども増えてきていることである。それに対する市の支援も他市から比べれば準要保護の基準も低くなっているため、そういう方々が来ても生活していきやすいということもある。また医療費の補助もある。今後は、外国からの子に対して学校でも手立てを打っていくが、なかなか難しいところである。
- ・地域によっても違うが、卒業したからといってその地域に戻って来るといって、戻って来ないわけである。最近では、高校進学においても袖ヶ浦より北を目指す志向が強くなって来ており、何とか魅力ある地域を作っていく、地元で定着できるように、学校と地域が交流するような授業を目論んでいるが、なかなか現状としては地域と学校の交流がうまくいっていないというか、学校に対する愛着心がまだ薄いと感じている。
- ・企業誘致ということで、椎の森のことが記載されているが、既存企業を今後市としてどのように考えていくのかということが記載されていないので、それも必要だと思う。
- ・農業について、集約化という話もあったが、会社を退職後に農業を行っている人も多い、いわゆるリタイヤした人なのだが、働いていれば健康でもあり、高齢化が悪いのではないということをはっきりしたい。生産年齢でなくなった人も、仕事をしてもらって、健康で、ある程度収入が得られるという形も良いと思う。
- ・バスターミナルがあるが、駅から遠く、広い駐車場がたくさんできており、また、長浦駅からもターミナルまでバスが出ているが、長浦駅の北口に企業庁の土地があると思うので、そういう土地を有効活用して、長浦駅からもある程度バスを多く出してもらいたい。ターミナルを作って、駅を降りたらそこにあるとういように、今のターミナルでは駅から歩いていけないので、もう少し長い目で見てもらって、そういうところを整備してもらおうと企業の方も利用しやすいし、良いだろうと思う。そういう中に、ゆりの里みたいなものを付けると、農業と工業が一体化して良いと思う。
- ・椎の森について、雇用を増やせる企業が入ってくれば良いと思う。県内の工業団地を見ても、袖ヶ浦市は別格である。臨海部の工業地帯に近く、インターチェンジにも近く、都心部よりも地価が安い、という好条件なので、そういうところをもっとアピールしていかないといけないと思う。
- ・農産物について、アウトレットにあれだけの人が来ているので、道の駅があ

れば、お客は集まると思う。

- ・仕事という面で、千葉県の戦略の中では通勤1時間圏内に仕事があるとしている。そういう意味で言うと、袖ケ浦市は立地に恵まれていて、東京圏まで1時間以内で行けるということを考えると、市内でどれだけ仕事を作るのかということは難しいと思うが、袖ケ浦市としては、むしろ仕事という面では、広域に考えて、生活環境というか、まちづくりという面で特色を打ち出していくのが良いのかと思っている。

基本目標（2） 地域への新しいひとの流れをつくる

- ・対岸の人にとって木更津市は知っているが、袖ケ浦市は知らないということがあるのなら、内房の市同士がまとまって、大きな組織としてプロモーション等を行うということも一つの手だと思う。
- ・袖ケ浦市は観光資源が乏しいということで、今まではドイツ村さんを中心としてきたわけだが、市民のアンケートでも海浜公園と袖ケ浦公園は非常に人気がある。海浜公園で花火を、ドイツ村さんと交互に行ってもらいたいという提案を市へ出している。三井アウトレットパークのお客さんをいかに袖ケ浦へ呼び寄せるか、いろいろな知恵を絞っているわけだが、目的が買い物ということで、駅の北側からバスの行き帰りだけで、なかなか街に寄ってもらえないということからも、三井アウトレットパークさんと連携して、海浜公園で花火を行えば、観光資源のひとつとなるので、市も協力していただきたいと思っている。
- ・魅力発見ツアーや農産物7品目を使ったレシピ作成なども現在、市でも進められている。
- ・人口推計で2040年には7,000人程度人口が減少することから単純に考えると、一人あたりの年間消費額が100万円くらいと言われており、袖ケ浦ではそのうち40%くらいが市外に流れていると考えられているが、それにしてもこれだけ人口が減ると、年間で70億の消費が減ってしまうことになる。市内では1,300くらいの事業者がいるが、それを頭で割ると、当然20年後には生き残っていける商店はふるいにかけて、益々小さい商店は減ってしまい、最悪の場合は大手に凌駕されてしまう危険性も十分ある。
- ・小規模店等で勉強会なども開催しているが、その中で出る話として、人材・

スキル不足である。パソコンなども向上はしているが、袖高もあるので、もっと学校に協力してもらい若い人の関係や技術等もサポートしてもらい、反対に生徒たちには、袖ヶ浦ではこういうことを行っているということを知ってもらえればと思う。

- 小学生、中学生の職業体験は、毎年県より依頼されてできる限り応じているが、これをもう少し進めて、何か新しいものを子どもたちと作ってみるとか、それを実際に製品化して袖ヶ浦を宣伝していくとか、そういう交流をしていきたい。そういうことによって、小さい事業者のモチベーションも上がるし、またそれが子どもたちにとっても住んでいて良かったということが少しでも定着していったら、結果的にそれが商業の活性化にもつながるし、シティプロモーションにも良い影響も与えるということで、その基本的なところをもっと交流を重ねていけたら良い。
- 今現在小学校6年生の子が、10年後働く際には、多くが現在に無い職業に就かざるを得ないと言われている。オックスフォード大学のオズボーン准教授が発表した論文の中で、10年後には現在ある職業の70%がなくなってしまうと言っている。この方は人工知能を研究している方で、今人間が行っている様々なこと、これは企業の方もいるので、実感もあるかもしれませんが、あの部門は10年後に無くなっているとか、今はこれだけの雇用があるが、機械化により人がいらなくなるとか、おそらく見えていると思う。そういう状況にあるという今、袖ヶ浦市の総合戦略を考えるにおいて、社人研が出している自然の経年変化の中で人口が減っていくだろう、企業が変わっていくだろう、というよりも、今言ったような、商工会の方が持っているような危機感は想定内のこととして考えていくと、人口の減少や企業との係わりはもっと切実な問題だと考えた方が良い。
- どの辺の人をターゲットにしながらアプローチを掛けていくのかということが、大きな問題になってくるのではと思っている。対岸の人をターゲットにする人々と、地元の人々をターゲットにする人は違うだろうと思う。
- 商業の活性化というと、町おこしをしないことには商業も活性化しないということで、今、袖ヶ浦の歴史に非常に興味を持っている。若い人はまず興味を持たない。ただ、突き詰めていくとすごく大事なことで、袖ヶ浦とはどういう町だったのか、教育委員会でも市史の編纂をしていると思うが、我がまちの歴史を知りたい時に調べられるようにオープンにしてもらいたい。そういうところにも、町おこしのきっかけがたくさんあると思うので、お願いしたいと思う。

- ・学校では、副読本などによって授業で教えている。郷土博物館でもできるだけ袖ヶ浦市のことを取り上げて、市民学芸員が地域のことを掘り下げて、持ち寄って展覧会などを継続的に行っている。市史はオープンにできるようにしたいと思っている。
- ・地域の子どもたちが地域のことを知って社会に出ていく、それによって郷土愛を持つ、郷土の誇りを持つ、ということは大事なことなので、それは重点的に行っているが、なかなか効果が出ていないのは事実である。
- ・袖ヶ浦駅前の区画整理事業を行っているが、長浦と袖ヶ浦が分かれてしまっているのので、一体化した方が良いと感じている。横浜であれば、横浜スタジアムに来て、帰りに中華街に寄って、他にもプレイスポットがあつてというように、規模は違うが、東京ドイツ村に来た人がそこだけで帰るのではなく、何か一体化したような取組を考えた方が良いと思う。

基本目標（3） 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・特に今、離婚家庭が増えている。また、晩婚化、非婚化という問題も大きくクローズアップされていると思う。だから、そういった問題も真剣に取り組んでいかなければならない。不妊治療も実際に子どもを設けたい方が儲けられないという切実な問題だと思う。だから、そういったものを最低限の基準というか、そういうところを市でしっかりと支援策を設けて、安心して産み、育てやすい環境づくりというのを、実働的に動いていかないと絵に描いた餅になってしまうので、こういう問題を総合的に行っていかないといけないと思う。
- ・結婚、出産、育児の問題もあるが、特に今結婚されて子どもを設け、保育所に預けて社会に参加する母親も出ている。その中で、子どもが病気やけがをすると、ほとんど母親が迎えに来る。男女平等ということでも、実際はまだまだ男性、女性の役割というのが、男性は仕事優先、女性が子育てにまわっている。女性の多い職場でも、やはり休んで迎えに行くわけである。それではいくら男女平等といっても何にもならない制度である。やはり根幹的なことがきちんと整備されていないと。もう少し各企業でも男性が子どもを保育するということが、社会全体で受け入れをしていかないと女性の負担が大きいというのが実感としてある。だから産んでみたいが、その後の子育てに非常に大きな不安があるというのが、現状を見ていて感じる場所である。
- ・ここに記載している子育て支援拠点事業や一時保育事業があるが、利用して

いるのは数%の人である。同じ方が利用しているので、累計自体は上がっている。実際は、相談を受けたい人がこの数%以外にいるわけである。その方は、なかなかこの拠点施設等に来られない、来ないというのが実態である。なので、地域に出て行って、どんどん話をしてもらいたいと職員にお願いしている。来ている母親たちは、子育てに関心のある方、むしろ来ていない母親に対してどうやってフォローするのか、悩みをどのように聞いてあげられるのか、それに対して保健師や看護師や栄養士などでフォローしていく、というのが我々の大きな役割でもある。まだまだ活用されていないのが実態である。

- ・待機児童がゼロになったという話があったが、0歳から2歳を預ける方が多く、その場合の保育士の配置が細くなるため、保育士の確保が課題となる。保育園の状況として、0歳から2歳の子どもの多いため、園全体の定員まで達していないにもかかわらず、保育士が足りていない状況となっている。低年齢の産休明け、育休明けを預かることは結構なことであり、女性が社会で頑張ってもらうためには低年齢の子どもの、長時間預かるということも重要である。これからは、マンパワーの問題をどのように解決していくのかが大きな課題だと思っている。これから保育士を目指していく若い人たちが、地元で目指してもらえれば、施設も開放して、将来的に地元で働いてもらうということを考える必要があると思う。そういう面で子育てとは、一概に子育てだけの問題ではなく、地域社会全部が関係してくる大きな問題かと思う。
- ・昔は、女性はある程度の年代で結婚するのが当たり前のようなところがあったが、今は働く場所が女性にもあるということで、自分で生活できてしまうというか、できるというか、女性が結婚することにより自分の自由が利かなくなるとい部分が出てきて、結婚に踏み切れないとか、ある程度自分なりにもっと楽しんでいたという話を聞く。どういうことがきっかけで結婚しようと思うのかわからない、ということも聞く。やはり、出会いとかはあるものの友達止まりで先に進まないというか、今の状態であるのが一番楽ということで若い人たちは過ごしてしまっているのではないかと思ってしまう。出産にしても、24時間営業の店も多く、不規則な生活をしている部分もあり、そういうことでいざ出産したいと思った時に体のバランスが取れていないということが出てきてしまっているのではないかと感じている。
- ・私の周りほとんど子どもが3人いる。なぜかと考えると、3世代で住んでいることが多い。地元でずっと暮らしていると、祖母が孫の面倒を見てくれるということもあり、環境に恵まれていると感じることもある。一方で、核家族で共働きの家庭では、なかなか子どもの面倒も見られないこともあり、

子どもの人数が増えない。子どもをどうやって増やすのかということは、ここで子どもを産んだ時にその子どもたちはどうやって生きていけるのだろうと、将来性を見つけてあげないと子どもは増えないと思う。雇用を増やすということで、特に袖ヶ浦は農業と商工関係に大きく分けると2極化していると思う。我が家の中でも2極化しており、田んぼが3町歩、畑が2町歩ありますが、一方で私はサラリーマンという状況です。実際に田んぼを継ごうと思っても3町歩では年間所得が250万円くらいしかありません。一般のサラリーマンが5~600万円とすれば、6町歩、7町歩ないと農業だけでは生きて行けない。農業で所得を増やしていくのかと考えれば、先ほども話があったが、集約化して大規模で効率化するとか、差別化した米の販売価格を作るとか、駅周辺の開発をどう考えるかわからないが、他市と同様の大型商業施設ができてあまり人が来ないと思う。であれば、袖ヶ浦オリジナルの農産物を差別化して販売するようなどころを作って行かないといけないと思う。そういうところで魅力を作って、袖ヶ浦に自分たちの子どもを増やしていこうという形にもっていかないと、子どもは増えないのではないかと思う。今のまま何もしないと、やはり大学に通って、その後都内に出ていってしまうのではないかと思う。これから袖ヶ浦の地場がもう少し活性化するためには何か動いて、袖ヶ浦の土地特有のアクアラインがあって、人口の出入りが良い、という特色を使ったり、農地をうまく使ったり、特色をうまく活かして活性化するようなことを考えた上で4つのカテゴリーを積み上げていかないと、ばらばらに展開していても無駄になってしまうと思う。

- ・ 先行型交付金事業の地域子育て支援拠点事業、こども館のコーディネーターなどの体制を整えているということは良いことだと思っている。
- ・ 新興住宅地が開発されて、若い世代の家族が増えてきている。フェスティバル等にも父親が子どもを抱っこして来る方が、昨年や一昨年にも増して見かけられるので、このまちで暮らしていくのにアンテナを張っているのだなと思っている。なので、先ほども知らせる方法ということで、どうしたら本当に必要としている人たちに周知できるのかという話があったが、そこが一番苦労するところなので、子育てポータルサイトのハッピーネットなどを、もう少し生きた情報が伝わるようなものにならないかと感じている。ガイドマップという本も良いが、やはり今の世代はネットからということが多いので、ブログなどでも生きた情報が伝わりが良いと思う。「知ってもらって、来てもらって、住んでもらう」ところまでは良いが、「住んで良いな」と思ってもらうまでに、もう少し小さなところを、身近な生活環境がどれだけ心温まったり、潤ったりするところが、「住んで良かったな」というところに繋がるので、大きなことも良いが、身近に本屋さんが無い、文房具屋さんが無い、ケーキ屋さんが無いというのではなく、ささやかでも良いので生活空間の中に潤

いのあるまちになってくれたら良いと感じる。

- ・代宿に唯一、児童館があるが、ここだけ子育ての事業から置き去りにされている感じがするので、大変良い場所で、椎の森の話もあるので、これから子育て世代が増えると思うので、児童館を情報発信の場としても、集まりの場としても、何か充実させていってもらいたいと思う。
- ・出生率が新聞によると去年は1.42に下がったと言われており、いずれにしろ袖ヶ浦市が発展していくには、子どもがいないと発展しないので子どもを増やさなければならない。具体的に出生率を上げるにはどうしたら良いのかという具体策を入れてもらいたい。
- ・外国では、子どもが何人生まれても、休んでも、国がいろいろ補助してくれている。そんなに仕事を気にしなくても子育てできる環境になっていると聞いているので、この先非常に長い目で見ていくわけなので、そのスパンの中でそういうこともきっちりとフォローしてあげて、若い母親父親が安心して子どもをたくさん産める環境を作ることが一番大事ではないかと思う。子どもが増えることが、まず人口減少を防ぐには一番なので、その他は奪い合いでしかない。あっちの県、こっちの県から奪って、それで成功すれば構わないとは思いますが、基本的には子どもを増やす、子どもを増やすにはどうしたら良いのかということの、具体的な事を入れていったら良いと思う。
- ・子育ての関連で、読書に力を入れていて、そういうところが気に入って越してきたわけだが、子育ての人たちが家を建て、定住するというのは、やはり小学校に入る前だと思う。出産の時とかは他でも良い。でも子どもが小学校に入るとなった時には、ここの学校に通わせたい、このまちで育てたい、と思って越して来たりすると思うので、なかなか仕事の関係や特殊な事情が無い限りは転校するという事は無いと思う。だから、小学校就学前が勝負だと思う。学校の特色として、こういう取り組みをしているとか、田んぼの学校で野外体験ができますとか、わんぱくクエストをやっていますとか、そういうことを具体的に発信していけば、見た人はそうなのだと、ここなら良いなと思ってもらえると思う。

基本目標（4） 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- ・ガウランドの話があったが、以前は土日に通っていたが、非常に人が多くて、特に60歳以上になると半額ということもあり、風呂が満杯で洗えない状況

が多かったので行かなくなりました。スポーツマシンも渋滞していた。ぜひ、拡張するか、何か検討してもらえればと思う。

- 青少年のサッカーに携わっているが、市内にサッカーのできる屋内施設が無いので、雨天時は市原や木更津の施設を利用したりしている。袖ヶ浦ではテニスも無いかと思うので、テニス場を含めて、またガウランドも市外の方も多く利用していたりして混雑しているので、もちろん予算の関係もあると思うが、それらを含めて全天候型の施設を考えてもらいたい。
- 災害時の避難場所として学校や公民館等が指定されているが、東日本大震災の教訓としてトイレの問題がある。排泄物が散乱し、悪臭が発生しているようなこともあったと聞いている。学校のトイレも運動会等で一斉に使うと、水が一時出なくなることもある。トイレに行っても水が流せない状況というところ、マンホールトイレがあるので、そういうものを設置して対応するとかしかならないと思う。実際に避難所に指定されていても、そういうマンホールトイレの設備が無いのではいけないと思う。こういうことも総合戦略に盛り込むのであれば、防災対策としてマンホールトイレは何基設置している、非常食はどれくらい備蓄しているとか、毛布はどれくらいある、だから避難所には何人くらい入れる、何日間凌げる、などの具体的な数字を出した方が、安心な街であれば引っ越そうと思うこともあるので、その辺をきちんと盛り込んでもらおうと良いと思う。
- 君津地域4市の中でも袖ヶ浦市はこれまで財政豊かで、サービスも手厚くしてきたと思う。それだけにこれまでの行政頼みと言うか、市民からすると行政を頼りにするという感覚がかなり強いのかなと見ている。地方創生ということで、今後の人口減少という局面を迎えた時に、やはりこれから主体となるのは、市民で、自主的に動いていくことが必要となってくる。その時にどれだけ市民が、自分たちの問題として認識いくのか、まち・ひと・しごと創生を認識するのかが一つのポイントになるということで、市としても努力していると思う。事業の中でも市民協働推進事業というものもあるが、この事業に限らず、いろいろな分野において市民や関係団体と連携して、いろいろなアイデアを出してやっていくことが一番大事であると感じた。

以上

(その他)

第2回懇話会は10月上旬頃に開催予定。

(閉 会 午後4時45分)